

念仏と太極拳

僧侶・太極拳指導員
池田 行雄

念佛を尋ねて僧侶に

僧侶も太極拳も六十二歳から
らの歩みです。今年で二十年
経ちました。十八歳から日本
窒素肥料朝鮮興南工場（北朝
鮮）で一年、海軍で一年八か
月、警察官として三十四年半、
金沢医科大学に七年を何とか
勤め終えてからです。

四五歳の頃お寺の御堂で母の膝でうたた寝中、満堂に響く念佛が今でも私の身に響いているようです。その母が私の十歳のとき、四十八歳

羽昨から京都への移転など心労の末の病死でした。末っ子で母にまとわりついていた私は、母の死が受け入れられず今でも母は私の胸に生きづづ



書作品 「鳥の目でみえるところが空
なのだ 魚の目でみると
ころが海なのだ」
室谷一格(むろや・いつしうう)
(能登町大箱在住)
奥能登抒情詩シリーズ「墨か
ら炭まで」展から

医科大學事務局を定年退職するとき、後輩から「この太極拳でも」の一言をした。何気なく聞き流しましたが、その頃偶然また太極拳体験講習の新聞記事を見て受講したのが初めでした。習いはじめは動作が身に付きませんでし

父は八十七歳まで生き、風邪をこじらせて自宅で最後を迎えました。両手を静かに布団から出しての合掌・念佛には感動しました。羽咋で酒店盛業の後の不況、京都への移転、趣味の日本画を仏画に変えて生計を立て、妻に死なれても金沢に移転、六十歳半ばを過ぎて真宗僧侶となり、仏画を携え巡回説教するという人生でした。その母と父の念佛を尋ねての僧籍取得でした。

銃の照準器が大きくなる、長い引き金が重く時間が無限に感じる、弾丸が黒点に吸い込まれる)という不思議な、躍り上がるような感覚と事実でした。『独楽が廻り澄む境地』と自分に言い聞かせていました。最近「而今の到處」との禅の言葉を知りました。何かに没頭したときに立ち至る、時空を超えた状態の表現のようです。太極拳は、一心に意識



中国蘇州市公園で太極拳交流演武をする筆者（前列中央、二〇〇六年）

事務局日誌（08）

事務局会議	(石浦神社)	08
年度事業計画	と第28回西運	
日本大会金沢大会の会場を	めに内定(開	
金沢市文化ホール	催日は平成21年11月22日	
「世界連邦石川」第38号発行		
世界連邦スター・作文コンクール全国表彰式(ボス		
タードの部特賞に泉野小一年		
前田珠奈さん		
ボスター・作文コンクール		
の打ち合わせに白山市教育		
委員会へ		
事務局会議	(石浦神社)	
世界連邦運動協会創立60周年		
年記念式での功労者表彰に		
石川県連から7氏推薦		
07年度第5回執行理事会に		
平口理事長出席	(東京・学	
士会館)		
事務局会議(石浦神社)		
平成19年度会計監査(山上		

短歌
歌の自画像

高井隼治（能登町内浦長尾）

たが、暫くして二千年前の体験・妙境を思い出しました。あの境地を感得できる手近な道はこれだと気づき、その追求を目指すようになつたのです。

を集中して静と動、虚と実、進と退の動作を柔らかに綿々と続ける運動です。仏道も太極拳も、澄みきった心身一如和らぎの世界を自覚すること

にあるのは共通です。道半ばですが、念仏と太極拳のご縁を有り難く、古いの坂道を歩んでいます。

編集後記

監事（山本監事）
世界連邦運動協会定例総会
に長谷、金子出席（東京・
学士会館）
世界連邦石川県連理事会・
総会（金沢工クセルホテル
東急）